

乙巳六月廿九日

相打三浦郡横須賀研製所大小修船場一也
相成石類在買上代只用了修船相打書骨

製鉄所掛

一金或万三千四百八拾九兩余

石代米運送賃去
一式在入用

石打相打三浦郡横須賀村製鉄所附大小修船場

一也此石相成石石類先般佛人口一トルヨリ備

圖相添相打小打石石而或石或千五百卒入用

音中立石間此程丈之保加費石類合相打足柄下

那真鶴村外六ヶ村一也善積後等是夫石高

十
務
直

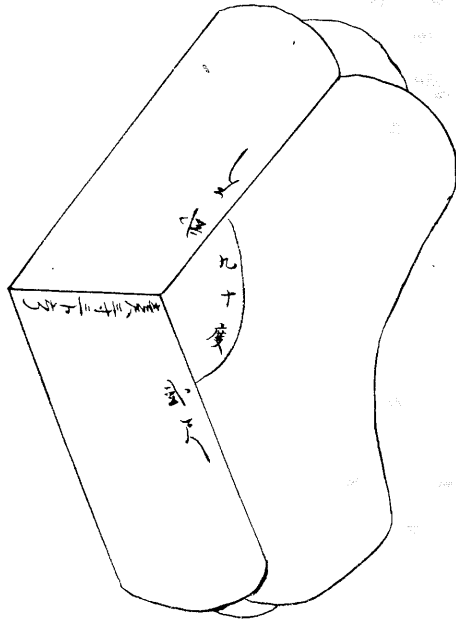
者呼出し相札之處小松石下場に傳へ去り七年
 以來内海に臺場を著請其外より多分の石敷切
 出し當時村内より九寺里程山奥に相成切荒し
 至る手薄く由より多分の石敷掃蕪を極く分同
 石と差續せ外下場石取交切出積を以見本若
 差出佛人口より一見若松を處望石より証
 合宜旨申立石間見本石取交也山元を買上直段
 取調せ處迄來物價進く踴騰く折柄より存外高
 直に相當に甘味島定所極端切組方棟梁藏田
 清右衛門長横須賀地元村役人相札を處小松石

并母屋見本石共取交出入用事より切出相絶
 古に付可成文出入用無相嵩持直段積差出させ
 才處別紙に通出移り去り亥年内海に臺場を
 著請の節に見合せ得る當節柄不相當にも相見
 一不申石間書面出入用金高目當に仕清右衛門
 兼地元村役人一着引請せ方可然否夫より順も
 有るに付仕裁くして世節に切出し分同人共
 一中邊仕上り上増減至綱申上り持可仕依り
 別紙相添せ段奉伺以上

廿六月

成野伊奈吉

佛人申立石横須賀村修船場老石類正買上代



寸数千卒

落札
一金千四拾九兩部方永百文

相列横須賀村

郊外

外野人

久野

小栗上野舟

山口駿河舟

岡部駿河舟

川藤光三権

栗石瀬多清

小笠原刑部

増田作右衛門

外

見合
金千百枚 壹兩 貳百文

見合
金千貳百兩

見合
金四千百枚 拾兩

夕 孫 岩

相判

真鶴村

外 丑 村
村 積

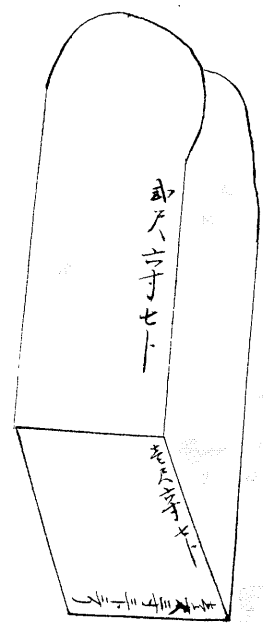
同

石橋村

外 壬 人

石橋村
藏 田 清 右 衛 門

藏 田 清 右 衛 門



此 數 字 万 八 千 奉

落札
一金貳百千 壹百兩

外

石橋村
藏 田 清 右 衛 門

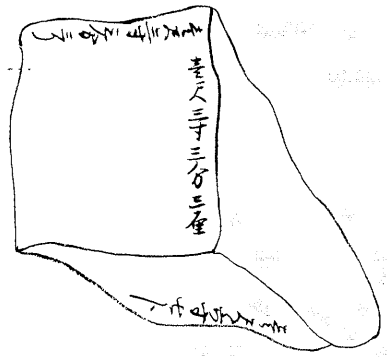
夕 孫 岩

夕 務 省

見合
金貳万貳千百九拾九兩五分五厘
相列
石橋村
外 寺人

日
金貳万四千五百八拾八兩
日
真鶴村
外 五ヶ村
村 靖

日
金貳万八千貳百五拾壹兩
日
横須賀村
外 寺人



落札
一金八百四拾兩

外

此数 三千五百分

日
藏 田 清 左 衛 門

夕 務 省

夕 務 省

金子拾五兩

相列

石橋村

或々居

外産人

金子百九拾九兩三分五厘

日

真鶴村

外五ヶ村

村諸

金子三百四拾五兩五分五厘

日

横須賀村

外五ヶ村

外産人

合金或万三千四百八拾九兩五分五厘

出入用

右石類は買上代共相列横須賀村河津揚運送賃
と同一式名前にての共落札相成書庫録に用
書面に通り度名以上

丑六月

夕 務 省

此序真鶴村外六ヶ村横須賀地元村役人石勘定
 所植梅切組方棟梁藏田清右衛門等夫々石代
 運送賃共一式口入用積者該在處別紙金壹万千
 七百八拾七兩五匁相成元積差引金八百八拾四
 兩三分金口入用増相成者得々も當前柄物價高
 直之由緒賃銀等都之引上ヶ者折柄之付外直段
 又先合書得々石相當之も相見石中其間金壹万
 千七百八拾七兩五匁を以て石代門一若引受早
 切之方申渡者格可仕哉此段相畑申也

正六月

相列横須賀村製鉄所海面通石垣一石代
 相成石石類石買上代

落札

一金壹万千七百八拾七兩五匁文 藏田清右衛門

内 八千九百拾貳兩永百八拾文 石代
 貳千八百七拾四兩三分永七拾貳文 刺栗代

相列横須賀村

一金貳万五拾七兩三分永百四拾文九 如多傷 外普人

内 金壹万五千百六拾五兩永百三文九下 石代
 金四千八百六拾貳兩三分永百三拾七文下 刺栗代

相列石橋村

一金貳百千貳百貳拾七兩貳分外五拾五匁 武多傳 外参人

内 金壹万六千六百拾三兩貳分貳百六拾七匁石代 別粟代

相判真鶴村

一金貳万三千貳百六拾五兩貳貳百七匁外五匁 村 積

内 金壹万八千貳百貳拾八兩貳四匁石代 別粟代

右石類 若別露性 買上代 其外運送 賃河岸揚も

一式若前よりの 薩札相成者 申入用書面を通り

申度者以上

乙六月

乙丑七月十三日

英佛行使節 架田日向寺 佛國マレセ

ル 旅館ヨリ 申出 申度 船ノ 積 甚

前畧

マルセールより 陸産 佛人ウエルニ 出迎

一人 案内を 一同ツリロシ 港 繋 陸 所 女

外一見 以 益より 申 存 外 感 大 之 法 構を 而 規

分 委 之 趣を 而 同 所 小 三 分 二 程 之 陸 葉

量 取 成 小 申 得 共 右を 而 申 中 小 志 易 小

ら 申 小 陸 葉 陸 小 存 同 港 内を 而 高 節 申

外 寄 書

元小座の積込積取用之妙製而○積積所
 ○蒸氣釜等鑄造又ハ諸積込修造所○船馬
 引運所○石炭並ハ○食料貯所○蓄力ノミ
 を製ハ工場ハ○船中庭厨具之製工場
 ○造船場近傍ニハ大板を主ク木灰工場
 五六棟有之蓄込之場ハ○ハハハハハハ
 一ホトハハハハ人工場ハ○ハハハハハハ
 工場ハ高ク英語ボツク佛語グイルと唱ハ
 其重量之着を自在上下いたハハハハハハ
 路之短ク重荷之車運轉之便とい多ハハハハ

外
 新
 書

所并多有之可余一楳内ニ大砲小銃車臺彈
 丸砲銃附屬之具等製工場所悉皆備具以多
 一或是蒸氣有之可余一見いたハハハハハハ
 其右等ハ等向要用之場所小等之可余ハハ
 中ハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 極ハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 ○横濱實業測量所ハハハハハハハハハハハハ
 中進出得共猶ハハハハハハハハハハハハハ
 達ハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 テレカラフを以ハハハハハハハハハハハハ

外
 新
 書

外行書

ニストルへ中通の積り取計の得共高為念
中上の儀に成望可

後署

マルセール旅舎

日向寺

駿河寺極

伊豫寺極

肥後寺極

備中寺極

加賀寺極

乙丑七月十七日

英佛行使節葉田日向寺佛國巴黎斯ヨリ

寺出の壺餉之振奉

前署

先般法國へ派奉りし横濱支那支隊系取

建方ニ甘酒雇佛人ウエルニ一俵同七日能

巴黎府より出迎りしに然し横濱支那支隊

所規必中子五揚け者之に通し同人案内を

以て同九日蒸氣車に乘りて口之港へ居然

し即日より同十二日より日く出張同所處

外行書

軍所廊内装束并造形物之諸局と勿落又
 他后来之刃金と右成場以々刃分以々
 同十三日再び馬里塞へ之帰同十五日尚蒸
 氣車と而獲程途中ヲコレ一泊同十七日
 巴黎府へ到着以々其餘尚委細之候ハ
 追々中進へ格存先以既得申之度ハ是
 以聖以以上

七月十九日

柴田日向書

山口駿河守格

菊池伊豫守格

田村肥後守格

星野備中守格

江連加賀守格

全文ハ柴田日向守使節一件ニ載ス

軍艦取取肥田土部は軍艦組布施経吉
 部為人既子和景より佛国リラニ迄出迎
 ひ居於ニ付不取敢面合ひ一令級之海
 用筋中倉の退く是械は買上ヶ方海用向
 才為取扱時心得し有之尤右有人和景傳
 習は用向之方いあり取計測之産し有之
 趣とる一ト先和景一引上十四五ヶ日之
 内、い海用向之上再ひ高所一ありは
 積り、時時積戻賀表製鏡系を建方ニ付
 入用之砂石類佛国より諸職人海航以前

左之通陸取歩取成り移以五一度与う上
 ルニ一より中立也
 一 在妙名新丁場生産之堅石 本文之石ハ
先達るウハ
ルニ一トは海
く所は致居也
 右ハ海言子メートル六面之内早く用
 意可致分ハ卦子フット六面之積ニ而
 其石一畝之大カ長五フット任幅三フ
 一ト任厚一フット半任右寸法より大
 之方ハ多支費之趣
 但陸目付方より借用写取可也面

中ニハ壁石青赤色 外百五拾石六面之
入用云々ト云揚々有之也分

一様傍外周高館等ニ有普通築造ニ有用以
切石

右考建為築造ニ有用水分ニ有魚言子
メートル六面之内早く用言可致分ハ
石敷一千本程ニ有石一箇之大ヲ通
事外國人居館築造ニ有用水位之品ニ
有支等之趣

但同新地分北面中次石 青白色 外百五

指石六面之入用云々ト云敷有之也分

此後ウエルニ一系持以たり居居製積

石仕極盡横文中ニハカラナイト 此係

石之 子メートル 一メートル 所圍 六面

青色ガラナイト子メートル六面ト云

揚々有之也方規分盡扣ニハ前條但書

之通壁石次石共外百五拾石六面云々

と有之也ニ其右彼等北面異同之趣於

ウエルニ一ハ有尋み其右外百五拾石

六面ト認有之也ハ即ち子メートル六

外 刊 書

面之内を向用を可致分を掲げし倭も
も可有之模之本書ニハ由格とも子ノ
トトルツの模掲載有之何をも右文
ケハ法入用を成り方同人中立時り
又之通中進時倭ノ有之於得と陸取調
有之可格存時

一 砂 控 吸

一 石 灰 控 吸

右之砂火山之灰ハ職人海統陸ニ時と
も陸取寄方りニ全一ツ先並向若又之四

品陸用道有之度分ウエルニ一ツ立時り
左格陸函を可成且ツ規則書面中記載
之模浪貨港湯重陸軍艦方ニ有之取調
分早く陸軍然有之可格いたく度右右ハ
既ノ當方ニ有ウエルニ一ツ立マルセ一
ル佛國エニエルセネラールハ中圖一
右コニエエルセネラールヨリ畫輪を以
模浪表在留佛國ノ倭ノ五達時多故同ノ
倭少も宜而中立時倭ハ其存時多共
ハフねニも早く陸取一有之可格存時其

外 刊 書

外務省

餘之候ハ尚進ク可得候意御得トモ是不
取敢候為申進可上

於佛國巴里所

七月十九日

紫田日向也

小栗上野介様

山口駿河守様

木下大内記様

石野筑前守様

栗本康玄御様

小野左五郎様

淺野伊賀守様

外務省

外務省

パレイスへあ書心多し其等故慮有之度其臣等
ミニストルへ可然申通さるる極頼入其右報
告送ぬ呈出謹言

慶應元年五月十九日 葉田日向也

高き今終つロイへラルト拙者旅館へ始り尋問
とくそ其越し其等面會いたし其時又拙者其地
出帆前其ミニストルより出花さるる一箱其三箱
之内一箱ハマルセル於るハトウと申者へ其
後一其餘其箱ハ尚解るるフロイへラルト其一
お届けいづれも其後取違ひ其等呈進し其

其臣等ミニストルへ通し其呈度存出謹言

外務省

乙丑八月五日

英佛行使節紫田日向古佛國巴黎斯旅館

ヨリ差出ル書翰抜萃

前畧

去月晦日分國ニニストルハ初ニ面會ハタ

シテ其後待遇至ル愈加ニ而速歩筋一愈之業

議堂之領詔いたシ衆議所之儀ハ海軍ニニ

ストル練兵之儀ハ軍旅ニニストル多務之

事故まゝ通達シ致ニ付直引合致シテ其極中

中既ニ海軍ニニストルハ去ル二日面晤

外務省

之儀難處以之給料号を彼是望出共余陸
 雇入と承り申す有之は得共其者ともハ
 撰り小入兼由に而ウエルニ一儀務く棟
 素以多給分増加之儀ハ出来か多く水底
 困布之辨あり尤昨今先ハ心當り給多給出
 来いたハ時趣ハ得共ハ中ハ極与取極之
 場合小入不中充角ハ里隔絶之地ハ帯
 在之雅儀を唱へ又ハ横濱迄降り病盛ニ有
 之よハ紙伝いたハ断り申出共多
 有之趣右ウエルニ一儀一箇之盡生ニ而世

故に殊くは得共諸事切実ニ致し前盡職方
 撰定方号至極行届き大匠造建之總裁匠高
 任お成り申す先ハ此不安心之事も有之
 弓矢お厄ハ陸都合宜盡り有之我存存時○
 フロリハラルトニもあ三度面晤以多ハ時
 至至極温和之人也、而佛都屈指之豪家ニ
 有之由外國ニニストルハ會晤之後商人ハ
 此國陸用筋取扱之儀引合時委自分入用也
 掛り時とも一才之榮山上なき儀ニ甘め何
 極ニも勉力精勤陸用りお達与崔躍申立時

以上ハ外國ニストル一畫柄ヲ以テ治定之
後中遠ノ時運ニよテ成中ノ時ハ心得途ニ中
上並テ中署

口産之味味ハ唐國一畫柄ヲ取用有之
ニ由傳函以多一更筋之職人商人等ハ
不府内之味味ハ勿論近郊近左等ノ
旅店等一止高居在方之味味入
製之畫柄亦亦買上之味味之味味種々之
功能ヲ認め時畫柄亦亦亦亦日々之味味有
之右等味味入ニ亦亦亦亦職ノ味味易ニ亦

滿中ノ時時得共何事モ不安心之巨鯨ニ有之
時並左モ可有之等ノ存時

佛國巴黎府家金

八月五日

日向

駿河

伊豫

肥後

備中

加賀

此旨 / 全文ハ 柴田日向守使節一件ニ
載ス

外務省

乙丑八月六日

英佛行使節柴田日向守佛國巴里斯旅館
予出の書翰控奉

以奉狀啟上以多くお然ハ先便中進お通し
拙者候去月十七日当府著いたしおまお國

ミニストルロワレテリエース左出以多し

お趣、而同廿日お國事務局於る始る同人
面會以し、兼るお仰含お陸軍練練傳明方

由頼之候并製殘可成造量ニ付佛人ウエル

ニ、由雇方之候諒者及おま右条件送し函

外務省

名心た〜中署

新造製鉄所 建造管方 紀伊 釜面 中 医 少 所 雇
之 儀、小 揚 載 等 之 所 得、と 也 衆 多 之 佛 人 所 雇
亦 本 所、二 付 而、ハ 横 濱 表 病 院、ハ 程 遠、ニ 有
之 所 只 初 庭 回 國 之 医 少 者 名 所 雇 前 釜 製 鉄
所、ハ 不 少 等 迄 時 而、ハ 難 九 成 与 上 正 ル、ニ
よ、中 立 世 餘 儀 次 第、ニ 也 中 海 軍 事 務、
ニ ス ト ル 面 晤 之 如 右 医 少 所 雇、ハ 之 儀 是 又
中 録、一 並 也
陸 署

外務省

佛國巴里斯から

八月六日 紫田 日向

山口 駿河 中 格

菊池 伊豫 中 格

田村 肥後 中 格

星野 備前 中 格

江連 加賀 中 格

尚心 駿河 中 格、一 得 時 之 時

本文 製鉄所 関係 之 處、ハ 在 掛 函 一 同、一 可
然 陸 通 達 有 之 處 即 又 先 任 在 掛 函 連 名 也、

外務省

外務省

与等立付用状中沙石類用立之候中進
一 是時候之交易一右内用状既海途中踰
留等之とも雜中ニ甘奉便高寫等進一度与
ウエルニ一申出付与考念別紙写一通等進
付
一本文ニニストル写別名之節、對話之趣付
方申入付通付教而函書、与更入組付候
も等之付ニ甘奉記ハ為致立付得共進達意
ハ別紙等進不申付

此書ノ全文ハ柴田日向守使第一件ニ載
ス

外務省

度意元年丑八月九日佛國巴里期於て

日本外國奉行兼領事官

深田日向守花押

後翰九月十五日ノ条ニ載ス

外務省

海軍之ニストルは迄日面暗々節日本横濱製
鉄而附与して海軍方医師一名を度度旨類入至
一愛同人亦速々兼儀其小きあり物とモツ
シウルサワテイ工といふ名のに古々役做を命
せらるゝ旅海軍之ニストル方は申通其小き度
如同人候也八百六十五年十二月第一日より
政府役務ヲ預りしむ

此書ハウエルニ一ヨリ出セシ外國事務大
臣へノ書翰也

外務省

乙未八月廿一日

浅野伊賀守及
小栗上野外及
山口騷河守及
川勝光之補及
小笠原刑部及
増田作右衛門及

藤澤志摩守
栗本瀨玄清

正軍艦本細及

川村紹四郎

日下鏡

神尾氏藏

右之製後野世用増勘(和泉守致)一申上之止

外務省

外務省

637

中流の河段に建ちよひ

乙八月

外務省

乙丑八月

製鉄所の雇人ニシテ橋梁ノ修テ
申上ル書付

製鉄所掛

一金五百八拾三兩五分八厘三文三下

廿洋銀千枚

組洋銀千枚五分
銀三拾五金幣

右に横濱實業表、製鉄所の取建、分取、雇相成、
俸人、ベルニシテ先建の波来い、多し地形、模倣
其外、手續、取柄、海峽、機械、製作、大、一、且、本國
一、器、備、其、節、製、法、所、規、則、書、通、給、費、入、用、

外務省

夕 養 雀

して洋浪千枚受取度者中支差向書候に付佛國
ミニストル方小標留渡し方者取計桶ミニスト
ル方一と横濱表製鉄所出普請出入用金に因を
以洋銀買上償戻し取計置書處同所出普請進
出落成に付抽仕上等差支書間書面を通早に
金取渡り度書始仕度候に由是定所一に由書
相派此段中上書以上

七八月

浅野伊賀守
小栗上野介
山口駿河守

藤澤志摩守
川勝光之煇
小笠原刑部
増田権右衛門

斗 務

以上

七八月

外務省

乙丑八月

佛國都府控下回國事務ニストルハ
談判仕女義ニ付中上ノ書付

柴田日向子

去月晦日佛國外國事務ニストルハ面會仕
回國事務并后妃ノ社造品出目録式通序子若板
方々之陸書等式通并ニストルハ社下品出目
録並通相渡被仰會在陸軍兵術傳習義製
録所取建ニ付佛人ウエルニ一在雇之儀
回國人フロリハラルト回國所用船為取

外務省

外務省

扱々義と何きも談判行届在國在留之各
國コンシエール共兩國之政務に携り并高業
管々義以來禁止省之度他中談水安右飲之
条之取調之上格授可及旨中開水旨決答次
第於中上之格可仕存及依之此使申上及
以上

丑八月

文中國帝后記ノ贈品目錄及閣老ノ書翰
ニニストルノ贈品目錄等ハ本編ニ關係
ナキヲ以テ柴田日向守が使節一件ニ該
リ茲ニ略ス

乙丑八月

覚

トローヘトツク附

- 一 貳指馬カロコモヒール 一
- 一 指六馬カ同 二
- 一 指馬カ 一

一 タシケンチヤールポンプ 三

メットツリホーレン

一 トレーフリーム 晋御指ハフート

一 ナーイリーム 四指ニ圖

外務省

一 卦トニパテントブロック	一
一 同 ケツチンク	ハ括フット
一 コロントホーレン	キ卦
一 括トニフルフルパリスストームカラーン	キ
一 モルトルモーレン	ニ
一 ライルス	百。八
一 同	卦千
一 ホウトスクールーヘン	三子三百卦括
一 タラーイシケーヘフ	六
一 ラントルステルレンホルワーヘン	括

一 同 ヘルニテフラックケン	ハ
一 シケーヘンメットスツール	ハ
一 ポンプ	一
スメモーデレイ	
一 エインデスレープステーン	一
メットワープホーレン	
一 六百 ホントシユワヘルストームハムル	一
同新	
一 卦百五括ホントホリウニタルストームハムル	一
同新	

一	ヘルチヤールストームケートル	二	同新
一	指五トシカラーン	一	同新
一	指トシカラーン	二	同新
一	六トシカラーン	一	同新
一	グルーイランパン	四	同新

一	六トレストームハムル	一	同新
一	三トシ同	一	同新
一	針トシ同	一	同新
一	五百ポイント同	二	同新
一	三百ポイント同	一	同新

一 鏡シエツヘルスミツク

拾 卅

田新

一 コンテルスメットエーセルンスヨールステリン

拾 卅

一 アーレンベールト

拾 卅 四

一 サールフロック

六

一 スメータンゲル

二百八拾 四

一 ボーヘンサールフロック

百 四拾 四

一 ラントルサールフロック

百 四拾 四

一 スコロイペートル

拾 卅 四

一 アーレンヘルトホルン

拾 卅 四

一 ワルムベートル

拾 卅 四

一 ドールスラーヘル

拾 卅 四

一 ホールハームル

拾 卅 四

一 スメードハームル

拾 卅 四

一 打鏡アルムカラーン

四

メットツィーベホルン

一 アフブラースマシーネ

一

一 トレイフウエルキ

一

田新

一 打鏡管

百五拾一フット

一 スターニテペーパーメットカラーニ 掛括四

一 ストームアフロイトル 九

一 蒸氣様械 括馬力之物 一

メットワーヘホーレン

一 ホンダグーシイプレート及ホート 一 式

一 三括馬力蒸氣釜 一

お道具類

一 コーフルスレーフステーション 一

ノットワーヘホーレン

一 スネーヨーセル 一 式

同新

一 ホシスエレスネーマシーネ 一

同新

一 リントウーフ 一

同新

一 三括トシコーケルカラーニ 一

同新

一 括トシハントリール 一

一 フランドスポイト 大 小 八

ヘープロ共

一フルサノメルハツク

同断

右之儀是械横及賀表、可也建製預可之内
一録組を建め極々、成り事

日本外園より景領事史

慶應元年丑八月

柴田日向守

モツシウル

ウエルニ一